

CM(コンストラクション・マネジメント)、PM(プロジェクト・マネジメント)の專業会社として実績を重ねてきた山下ヒュー・エム・コンサルタンツ(山下PMC)は、建設業界の枠にとらわれず、さまざまな業界・業種との連携を通じた事業創造に力を入れる。さらなる領域拡大という重責を担い社長に就任した川原秀仁氏は、人材・ノウハウを駆使して、理想と現実をつなぎ合わせる「地に足のついたマネジメント」を展開する。

山下ヒュー・エム・コンサルタンツ 川原 秀仁氏



新社長に聞く

全員で守り全員で攻める

観光に健康、介護、癒しなどを組み合わせ、シニア世代や欧米からの観光客を呼び込む取り組みを進めている。ほかに、日本企業の海外戦略支援や東日本大震災の復興にもかかわっていく

人材の活用について

「現在の社員数は54人。まず60人を目標にして、近い将来100人まで増やしたい。われわれにと

タイプな組織を、マネジメントの世界で体現したい」

——親会社である山下設計との連携は

「互いのノウハウ、技術を交換するなど、グループ会社として成長スパイラルを考えていきたい。しかし、設計者とマネジャーという立場で協業することはない。そのルールは守らなければならない」

（かわはら・ひでひと） 1983年

って人材がすべてだが個人商店ではなく、組織のチームワークを大事にしている。理想は全員で守り全員で攻める「モダンプレッシングサッカー」。バルセロナのように芸術的ともいえるほどクリエイ

日大理工学部建築学科卒業、同年農用地開発公団入籍。農林水産省、国際協力事業団兼任所属を経て91年山下設計入社、99年山下ヒュー・エム・コンサルタンツ転籍、2005年取締役統括部長、08年常務、12年12月14日付で社長兼社長執行役員、日本コンストラクション・マネジメント協会理事。佐賀県出身。60年2月28日生まれ、52歳。

——進むべき方向は
「これまで鈴木紀行会長(前社長)と二人三脚で進めてきた方向は変えない。これまでの方針をより速度を増して進める役割を担ったのだと感じている。エネルギーを注いできた事業創造部門は売り上げのシェアも大きく、さらに進化・発展させたい」

——事業創造とは

「異なる業種同士をネットワークでつないで新しい事業モデルをつくり、施設を介して永続する事業とすることがわれわれの目標。」

さまざまな業種・分野がリンクのよつにつながら、最終的にはオンラインネットワークが構築できればと思っている。データセンターを例に挙げると、従来はICT(情報通信技術)を建築というハコに入れていただけで、両者の領域は文化、言語、技術のすべてが異なっていた。これを統合して考えれば、施設のあり方は変えられ、まったく新しい価値を提供できる」

——統合して生み出せるものは

「いままで、建築は建築という

よつに、領域・業種を分けて考えがちだった。一方、マネジメントの概念はすべての業種に浸透している。別の業種のもつ進化した手法を建築に取り入れれば、もっと効率化できる場合もある。解決策を見だし、プロジェクトを推進するためにそれらをかスタマイズする役割が求められている」

——どのような業界とかわかっているか

「医療や研究開発、生産、物流、学校などの分野で力を発揮したい。また、地方都市の再生では、

記者の目

サーファー歴38年、いまもほぼ毎週海に出る。「趣味ではなく病気をというレコード、CD収集は8000枚に上り、かつてはプロのイラストレーターとして雑誌に多数掲載された経歴を持つ。「理想像が形成されると、そこに向かってどこまでも突き進む」といふ言葉どおり、発言はどこまでも前向きで、難しそうな課題でも軽くクリアできてしまいそうな頼りがいがある。閉塞感が漂う建設業界も、本気で殻を破ろうと思えば活路は見いだせるはず。新しい風を巻き起こす突進力に期待せずにはいられない。